

東京文化会館 Workshop Workshop! コンビニアル・プロジェクト
社会包摂につながるアート活動のためのレクチャー&トレーニング
公開レクチャー&ディスカッション 第2回「音楽と認知症ケア」

◆登壇者・モデレーター略歴

原 真理子（はら・まりこ）

インランドノルウェー応用科学大学 研究員

認知症の祖母を介護した経験より、音楽による認知症ケア実践や研究に携わるようになる。在英中は、音楽社会学研究グループ（SocArts）に在籍し、認知症患者と介護者の音楽活動に関するエスノグラフィ調査を実施。ノルウェー移住後は、インランドノルウェー応用科学大学では音楽教育研究グループに在籍し、オスロを中心に活躍する移民音楽家のキャリア形成の調査研究に携わる。多文化社会、高齢化社会における音楽の役割に関心があり、現在はコロナ禍における多文化音楽活動の研究を行っている。英国エクセター大学社会学部博士後期課程修了。社会学博士。

野崎 建治郎（のざき・けんじろう）

社会福祉法人足立邦栄会 足立ブロック事務長

2003年足立邦栄会入職。生活相談員、介護支援専門員を経て現職。人材育成プロジェクトや法人20周年記念オンライン企画などで、高齢者施設・障害者施設での音楽ワークショップ導入のコーディネーターを務める。社会福祉士、ワークショップデザイナー。

中村 美亜（なかむら・みあ）

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

アートと社会の関わりについて研究。とくに多様な人たちが参加するアートの場の作り方、ファシリテーションの方法、芸術文化の価値と評価に関心がある。共編著に『“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』シリーズ（九州大学ソーシャルアートラボ、2019、2020、2021）、『社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック』（東京文化会館、2020）、『ソーシャルアートラボ』（水曜社、2018）、単著に『音楽をひらく』（水声社、2013）など。